校長室だより～燦燦～ №７１５

要精検

2023.3.9

人間ドックの結果が返ってきた。テストの結果を見るように多少ドキドキする。ドックの日にお医者さんから速報値をもとに説明は受けていた。その通りの結果だった。今までは縁もなかったようなところに異常の疑いが出た。要精検である。精密検査を要するという結果だった。

今までも、何度か要精検はあった。胃に異常が見つかり、胃カメラの検査をしたことがある。非常に苦しかった。痛かった。検査の最中に「これが胃ですね。きれいですね。何の異常もありませんね。一応、腸も見ますか」もうやめてくれと叫びたかった。二度と胃カメラはごめんだと思った。

精密検査をして何もなければ、それに越したことはない。健康診断の結果が届き、精密検査を受け、その結果がわかるまでは落ち着かない。今回もそうだった。全く考えてもいなかったところである。それも２つである。やはり、着実に歳を取っているのかと落ち込んだ。

精密検査は、職場にも自宅にも近い病院を選んだ。朝の受付開始時間に合わせて出かけた。２番目だった。受付を済ませて、ロビーのいすに落ち着いた。どんどん人がやってきた。ロビーを見渡すと、私は若手だった。自分も近い将来こうなるのだなと自覚した。

検査が始まった。点滴を打つという。なぜだという疑問がわいたが、何の説明もなかった。看護師さんが針を刺す場所を探している。なかなか見つからない。昔もこのようなことがあった。だんだんと不安に襲われる。看護師さんが、私の腕をたたき始めた。余計に心配になる。

点滴をしながら検査室へと移動する。病院やテレビでよく見る光景である。自分がこうなるとは思わなかった。検査室に入る。ここでようやくＣＴ検査をすることがわかった。これもテレビでよく見る。「造影剤を入れます」造影剤、聞いたことがある。何だか重い言葉の響きである。

ところが、この造影剤は、私の体に入っていかなかった。「痛くないですか」本当に痛かったため「痛いです」と言った。何だか腕が腫れてきた。すると、あわてて針を抜き始めた。違う場所に針を刺した。またうまくいかなかった。次は、よく注射をするわかりやすい血管に刺した。どうやら、これは最終手段だったようである。どうにかこうにか造影剤は投与され、ＣＴ検査は終わった。

点滴の針を抜くときに、さすがに看護師さんに聞いてみた。「この腕は大丈夫なのでしょうか」「大丈夫です。自然と抜けていきます」本当だろうかという不安をぬぐえないままロビーで腕の痛みに耐えながら待つことになった。すぐに、造影剤、ＣＴ検査などをスマホで調べた。造影剤が投与されたときに体が熱くなった理由などがわかった。ＣＴ検査のこともわかった。

程なくして名前を呼ばれた。ＣＴ検査の画像を見せていただきながら、お医者さんの説明を受けた。丁寧に説明していただいた。初めて自分の内臓を詳しく見た。そこにはテレビの世界でよく見るものが出ていた。自分の内臓なのだが、自分のものとは思えなかった。

結局、異常はなかった。いいお医者さんだった。ありがたかった。気持ちが晴れ晴れとした。だが、着実に自分はテレビの世界に近づいていることを悟った。もはや健康とは言えない。数日前から、家人が YouTube の動画を見ながら運動を始めた。何かに駆り立てられるように私も参加するようになった。